

【算数】

「※」は学習するときのヒントです。



＜学習内容＞

◆「わり算の筆算」（教科書 31～32 ページ）

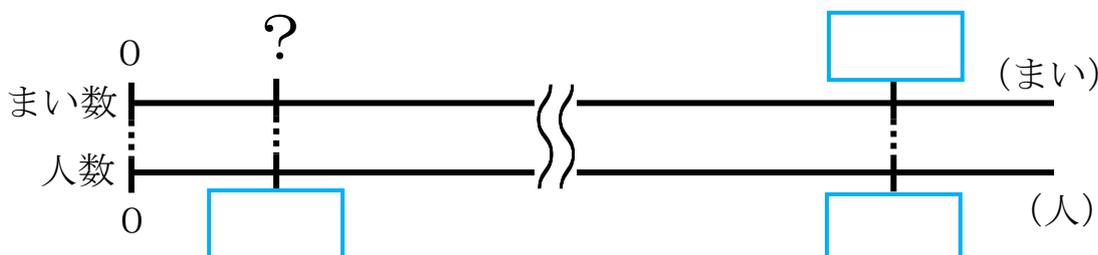
折り紙を3人で同じ数ずつ分けます。



(1) 600まいの折り紙を3人で同じ数ずつ分けます。1人分は何まいになるでしょうか。下の数直線に、赤ペンで数や矢じるしなどをかきわえて、どんな式になるか考えましょう。

※図を使うと、考えたり表したりする力が身につくよ。

※教科書 165 ページ「数直線のかき方」をさんこうにしてみてくださいね。

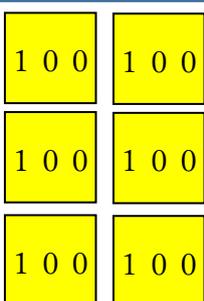


式

※わられる数が3けたになっても計算できるかな。



(2) 下の□の中に、図や言葉などを使って、式の答えを求めましょう。



※100のまとまりが6つ分と考えるといいね。



(3) 736まいの折り紙を3人で同じ数ずつ分けます。1人分は何まいになるでしょうか。

※ (1) の問題文とどこが変わったのかがしてみよう。

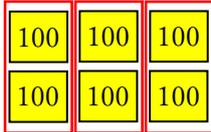
式

あれ？ 百の位が7になったよ。わられる数の十の位や一の位にも数があるね。わりきれのかな。



3けた÷1けたの計算で、100のまとまりだけでわれない時は、どうやって計算すればいいのかな？

(4) たかしさんが折り紙をわけています。残りの136まいを、どのよう  
にわけたらよいか考え、□の中に言葉や図で書き表しましょう。



たかし



※100のまとまりが1つあまったよ。このままじゃわれないから…。

(5) マスや青四角の中に数を書いて、筆算と式を完成させましょう。

3	7	3	6

※まず、百の位に数をたてよう。

※かけて、100のまとまりが何こ分かを求めよう。

※7からひくよ。

※十の位の3をおろそう。

※あとは、十の位、一の位の順に、これまでと同じように計算するよ。

736 ÷ 3 =

あまり

(6) 教科書 32 ページの 10 と 11 の問題に取り組み、ノートか取組シートに書きましょう。  
※筆算を使って求めてみよう。

<保護者による関わり方のポイント> ※可能な範囲でお願いします。

◆わり算の筆算（教科書 P31～32）

・「桁数が増えても、筆算の手順は変わらない」と、子ども自身で気付くことが大切です。  
「もし、わられる数が4桁になっても計算できそう。」などと、数の範囲を広げて考える姿が見られたら、お子さんを褒めていただければと思います。